

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200517		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホーム白鳥の里		
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111
訪問調査日	平成21年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のあるがままを受け入れ、入居者は思い思いに過ごしておられる。地域に開かれたグループホーム作りに力を入れ、気軽に立ち寄って頂けるよう広報誌等で情報発信や安全パトロールをしたり地域の行事や活動にも参加して頂いている。また、畑作りも入居者と職員だけで行うのではなく、家族や地域の方とも一緒に行い収穫の喜び等を分かち合っている。  
 小さな変化にも気が付ける目をもち、職員間での情報共有を行い入居者が安心して生活できるように支援している。また、医師を講師に迎え急変時の対応等研修会を開催し、気軽に相談や情報交換を行い連携を図っている。病院が併設しており、24時間緊急時・急変時の対応が可能である。また、AED・吸引器が設置され、急変時に迅速な対応が出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中海病院を母体として、医療面・衛生面でのきめ細かい配慮ができる体制で、周りの環境も田園風景で、平屋建ての落ち着いたグループホームである。職員一人ひとりが入居者があるがまま受け入れる姿勢で接し、家族のような雰囲気を感じられた。地域住民とも、農園で共に汗を流したり、地域の掃除や安全パトロールにもホームで一体となり参加されていた。小学校との交流も多く、ボランティアの人も毎日来るなど地域との関わりを大事にし、開かれたグループホームとしての取り組みを感じられた。地域密着型サービスとしての意義を管理者及び職員は理解・共有しており、自治会、地域住民、他法人事業所との交流を通じ、地域と共生してゆくグループホームを構築しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。また、理念は玄関等目の付く場所に掲示し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	家庭的な環境と地域住民との交流の下で利用者の暮らしを支援してゆく独自の理念が掲げられている。地域密着型サービスとしての意義を管理者及び職員は理解・共有しており、理念を踏まえたサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館行事やお大師詣り等の古くからの慣わし、地区の清掃活動への参加をさせて頂いている。また、グループホームにも気軽に立ち寄り、ボランティアの受け入れや畑作りを通して交流をしている。	公民館行事や地域の清掃活動も積極的に参加している。畑作りも近隣の方が気がるに手伝ったり、ボランティアの受け入れも毎日あり、地域との交流がされていた。	今後も地域においてグループホームが周知・理解され、利用者や地域が繋がっていきけるよう様々な取り組みが期待される。近隣の保育園との新しい関係作りも検討されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や1ヶ月に1回発行するホーム便りを通し、認知症についての理解や支援の方法を地域の方々に向けて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、サービス状況やケアにおける課題等を報告している。頂いた意見は、素直に受け止め職員間で共有し改善するよう力を入れている。	2ヶ月に1度開催し、サービス提供状況、行事等の報告及び反省、認知症に関する勉強、意見交換が行われている。必ず利用者の家族が参加して、サービス向上に向けて話し合いがあり、要望については職員で共有して改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には、市町村長へ報告しているが、日頃からの連絡は密ではない。今後の課題である。	地域包括センターとの情報交換は行われ、サービスの向上に向けて、連絡を取り合っていた。	ホームから市の担当者への継続的な働きかけと同時に、市の積極的な協働の姿勢が望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生会の身体拘束廃止委員会にも属し、委員会の意見や指導を受けながら、身体拘束とならないケアに努めている。やむを得ず、必要となった場合は、家族の理解、協力を得て早期に解除出来るようにしている。玄関については、昼間は誰でも出入り自由になっている。	昼間施錠はされておらず、職員が目配りと、通過時にチャイムが鳴ることで対応している。身体拘束をしないケアについて法人より研修、指導を受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行なっていない。言葉かけ等にも注意を払いながら、ケアを行なっている。研修会の機会は持っていないが、今後は積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の機会はあっても、徹底しきれていない現状である。必要時には、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけ説明を行うと共に、不安や疑問等を伺い、サービス・ケアに反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の場を設けたり、面会時等日頃から言葉かけをしたり、忌憚のない意見が頂けるようにしている。また、頂いた意見は、職員間で共有し、サービスに繋げている。	運営推進会議に複数家族の出席があり、意見をj得ている。年に1回家族会も開催されており、今回は手作りのカフェショップを作り、なごやかな雰囲気の中で、さりげなく希望の抽出が出来ている。意見・要望に対してはすみやかに対応している。	家族の世話役さんを中心に、家族会での自由な語り合いの場の提供が今後も期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスの場を設け職員の意見や提案を聞く機会がある。カンファレンスに出席出来ない職員からの意見も事前に、聞いて反映させている。	毎月、カンファレンスの事前に職員一人ひとりの意見をたずねる仕組みがあり、サービス提供に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。現場に出向き、業務や悩みの相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量等を把握し、各々にあった研修会参加を勧めている。厚生会法人内においても、教育委員会を中心とした研修会が定期的であり、学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの相互研修、院外研修等を通して他事業所との交流することが出来る。また、運営推進会議においても、他のグループホームの職員にも参加して頂き、意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、不安や困っている事等を伺い、グループホームの生活に慣れるまでは特に密に触れ合う場を設け安心するための関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、家族の不安や困っている事を遠慮なく言って頂けるように、グループホーム側からもお願いしている。意見を頂いた時には、じっくり話をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の気持ちを伺い、必要としている支援に結びつけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で、役割を持って頂く等し、「人生の先輩」とし入居者の方々から学ぶ姿勢を持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しでも目を向けて頂けるよう、また気軽に来て頂けるよう広報誌や面会・電話で情報発信、情報共有している。家族との関係を保てるよう、行事への参加も積極的に呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の心身の状態によって様々であるが、里帰りや家族や友人との外出、行きつけの理・美容室、店舗等への外出支援をしている。また、事前に生活歴や嗜好等を把握する事により交流出来るよう努めている。	事前のアセスメントを充分に行っている。盆に墓参りをする、昔から行きつけの理・美容院に行く、スーパーでの買い物、家族や友人との外出など本人の馴染みの関係の継続性を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり、交流・支え合えるよう職員は、極力見守りを行い必要時にはきっかけを作るようにしている。入居者の個性を尊重した、役割作り、レクリエーション・行事を行い関係を深めて頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、情報を提供したり相談に応じたりしているが、まだまだ出来ていない部分がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や希望の把握に努め、時にじっくり話しあう場を設けている。また、聴くだけでなく入居者同士の会話・表情・行動等、五感を使い把握するようにしている。	生活歴のアセスメントとともに、利用者の日々の言葉や表情、行動をキャッチし希望の把握に努めている。またケースカンファレンスで願望を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境をよく聴き、本人や家族から得た情報は、共有しケアの反映に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを尊重しつつ、毎朝の健康状態や表情等を見極め対応するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しの際には、両者また介護職員や主治医等の関係者からも意見を聞き作成している。職員間の申し送りやカンファレンス時、その都度意見やアイデアを出し合っている。	日々の観察をもとに2週間に1度は評価を行っており、現状に照らしている。本人、家族の希望及び職員、主治医の意見を反映した介護計画となっている。	「その人らしい暮らし方」へのアイデアを盛り込んだ個別のプラン及び手順作成のために、毎回新鮮な目で確認していくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で気が付いた点や工夫等は、都度意見を出し合うようにし記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟な姿勢で、発想の転換が出来るように努めている。今後、より一層取り組めるように努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で頂いた意見を参考に、安全パトロール・行事に参加していけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を伺い、定期的に医療機関へ受診して頂いている。かかりつけ医とホーム側で連絡ノートを作ったり、時には家族にも受診に付き添って頂いたり、それぞれ情報交換を行っている。	法人の米子中海クリニックがホームドクターである。また協力歯科医の往診がある。他に希望する診療所への受診支援も個別に行われている。受診結果について連絡表により情報の共有もなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、小さな気付き、不明な点があれば直ぐに看護師に報告し指示を仰ぎ、取り組んでいる。また、看護師と介護職員間で連絡ノートを作成し、情報共有を図っている。同法人の外来看護師とも連携を図っておりその都度、状態報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が万が一入院された場合において、治療が安心して出来るように連絡表(サマリー)を用いて情報提供をしたり、職員は定期的に病院へ行き、入居者の病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、看取りの指針を用いる等し、家族・主治医・管理者・看護師・職員で重度化した場合や終末期のあり方について、話し合いを重ねるようにしている。	利用者の状態に合わせて、本人・家族と話し合い、個別に看取りの指針を作成し同意書を得ている。グループホームとしての方針・姿勢を軸としてハード面も含めて終末期のあり方について見極めをしており、本人および家族・関係者と共有をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師によるグループホーム内研修会を行うようになった。また、法人内においても定期的に急変時に備えての研修会が行われ、職員全員参加できている。しかし、実践できるかという不安は残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は、実施出来ている。地域住民にも訓練に参加頂いた。火災以外の災害の訓練等は、不十分な部分もある。	利用者が全員参加する訓練も実施されている。災害時には法人全体で連携体制がとられ、地域と家族の協力も得ている。備蓄は法人施設に保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で温度差が生じないよう、一人ひとりのあるがまを受け止め、言葉かけや対応に気を付けている。	丁寧な言葉かけ、本人を受容するような対応を心がけている。適切な声かけについて、気づいたことはカンファレンスで話し合い、職員間で統一した対応になるよう相互にアドバイスしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からも、思いや希望が言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日々の流れはあるも極力、入居者のペースに合わせ強制やペースを乱さないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の一部として、各々に見合ったおしゃれが出来るよに、「素敵ですね」と声をかける等、身だしなみに気をつける心を保てるように努めている。できない方に関しては、職員が日頃より気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、入居者と共に食事作りや片づけを行っている。献立は、職員が作っているが、入居者の希望があれば、その時々で献立を変更している。また、畑と一緒に収穫した野菜も、食卓を彩り食事を楽しめるように工夫している。	メニューは、利用者の希望を取り入れ、職員が作成をした上、法人の管理栄養士が栄養バランスをチェックしている。利用者の力量に応じて、食材の買出し・調理・配膳・下膳をしてもらっている。職員は利用者と同じテーブルに着き、介助されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量と水分量をチェックして記録に残している。摂取量が少ない時は、捕食して頂く等し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。食事のバランスに関しては、法人の管理栄養士の指導を受け、反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、できる方に関しては、見守りを行いできない方には、一人ひとりの状態に合わせたケアをし清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ、排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。極力、オムツやリハビリパンツの使用はしないように取り組んでいる。	チェックシートを作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、トイレ誘導することにより自立支援をはかっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を学び、「運動」「水分」「食事」のケアを重点的に行っている。自然排便を促すよう、食物繊維を多く含む食事や乳製品の摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調等を考慮しながら、希望に添った入浴をして頂いている。	入浴時間帯は、希望に沿っている。頻度、二人浴など個別の意向に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを大切に、無理のないように支援している。照明や室温・音にも気を配り、安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、細心の注意を払い主治医・看護師・職員間での情報交換し支援している。薬の用法・用量・注意点が直ぐわかるよう説明書を、個々のファイルに綴じて、いつでも見れるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や「できること」を把握し、楽しみや役割を持った生活を送って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の散歩や買い物の際は、職員付き添いのもと外出されている。その日の希望に添い、柔軟な対応を心掛けている。また、定期的に外出行事を計画し家族へ参加を呼びかけている。	毎日の食材仕入れの買い物に加え、近隣の散歩など希望に沿って支援している。レストランや甘味処などの外食、花見や温泉へのドライブなど趣向豊かに計画実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得た方に関しては、所持して頂き、希望時には直ぐに応じるようにしている。できる方に関しては、支払いも極力ご自分でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話は掛けて頂いている。絵手紙や年賀状等季節の節目ごとに出して頂いている。家族からの電話や手紙も自由に頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵手紙や装飾等、季節を感じられる物を飾っている。また室温や臭いなど不快感を招かないように衛生面に気を配っている。	広さのあるダイニングには、テレビ前にソファが置かれ、続きに掘り炬燵のある和室、廊下の一角には当たりの良い読書コーナーと随所に利用者が思い思いにくつろげる空間がある。季節の花が活かされている、壁面には利用者の作品がセンスよく飾られている等雰囲気作りに工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いの場やホール等、入居者同士交流できる場を設けている。好きな場所で思い思いに好きな事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活に近づけるよう、使い慣れた家具や物を本人や家族と相談しながら、持ってきて頂いている。各居室とも、個性溢れる居室となっている。	仏壇や使い慣れたタンス、椅子、ベッドなどが置かれ、写真などの装飾品とともに、本人が心安らげる空間になっている。換気、温度、明るさをはじめ環境整備も適切に行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、場所(便所等)をわかりやすく明記したり工夫している。		